



レッツ・エンジョイ!モルック

1 喜一憂
また楽し

3 フィギュア
スケートスタイル

4 剛速球
スタイル

2 ボウリング
スタイル

1 投球スタイル
いろいろ

5 お控えなすって
スタイル

モルックとは
北欧フィンランド生まれのスポーツです。木製の棒(モルック)で、3～4m離れたところにある数字の付いた12本のピン(スキttl)を倒して得点を競います。合計点がちょうど50点になると勝ちになりますが、50点を超えると25点に戻ります。

年齢、性別、障害の有無にかかわらず楽しめるモルック。6月7日(土)には三菱ケミカルグラウンドで、『おたけモルックワールドCUP 三菱ケミカル』が開催されます。6月15日(日)には、大竹モルッククラブ主催の無料体験会が、9時30分から12時ごろまで、さかえ公園で行われます。(申し込み不要)

5月18日、総合体育館に開催された「第1回市民インドアモルック大会」の会場です。3人1組のチームが33チーム出場。自治会や職場、親子、高校時代の同級生グループなど、出場チームもさまざま。予選リーグ、決勝トーナメントと、熱戦が繰り広げられました。

全市的なモルックの大会としては、今回が初めてのこと。運営や審判に携わるスポーツ推進委員もルールを学ぶところから始めたといえます。大竹モルック

この日のために、秘密の練習をしてきたという新町1丁目チームを率いる自治会長の嘉屋直昌でした。

通常モルックは、野外で楽しむ軽スポーツですが、今回は室内で行うため、用具も少し違います。野外では木製のものを使いますが、室内用は、床を傷めないように軽く柔らかな素材です。野外とは跳ね方が異なるため、経験のある人も感覚の違いに少々とまどう場面があるようでした。

勝ち負けよりも、和気あいあいのプレーで交流したことが、何よりの収穫と思えたインドアモルック大会でした。

「大会前に少し練習をしましたが、木製のものだったので要領が違いました(笑) やってみると面白いし、年齢にかかわらずできるスポーツなので、百歳体操や、防災訓練など、地域のみんなが集まる場で広めていきたいと考えています。そう思い描く嘉屋さんです。



①試合開始前に大会委員長の中村和嗣さんによる始球式 ②倒したピンの点数を加算します。倒れても他のピンに寄り掛かっていたら得点になりません ③審判長の森田さん。「1年半前に見たのがきっかけで、職場の仲間と始めました。勝っても負けても面白い」 ④記録係を務めたスポーツ推進委員 ⑤運営スタッフで入念な打ち合わせ。